

日本は九州出身？ 『日本書紀』はつくられた史書

蛭田喬樹

はじめに

今回は神武元年紀元前 660 年のお話をした。この紀年は、『日本書紀』（以下『書紀』）に書いてあること、卑弥呼と神功皇后の活躍時期を一致させ紀年を延長したこと、『書紀』より 100 年早く国史は作られていたこと、などをお話した。

『書紀』によれば、日本の起源は九州であるとされる。日本の国土はイザナギ・イザナミが生み、イザナギは日向の橘の小門の阿波岐原の海で禊ぎをした時にアマテラス・ツクヨミ・スサノオの 3 人を生んだ。アマテラスは孫を九州高千穂の峯に降臨させた。日向三代の時が過ぎて、神武は瀬戸内海を東に進み、ヤマトに国を開き、初代天皇となった。

これは遠い昔、国がつくった物語を、太平洋戦争の時、国民学校（今の小学校）一年生から教えた話だが、天皇は神の子であることを、このようなかたちで教えたのだろう。

今日は、なぜ九州が日本の故郷でなければならないのか、なぜ大倭国の歴史に卑弥呼が登場するのか、そして、神武が本当に九州から来たのか、をお話して、『書紀』がどのような史書なのかを明らかにしたい。前回とダブるところもあるがお許し願いたい。

「天孫降臨」の地は出雲

- 神武は渡来族だが、渡来したのは九州でなく出雲と推定している。『天皇記・国記』では、正しく記されていたと推定される。それが、なぜ九州高千穂になったのか、から話を始めたい。（神武が渡来したときの詳細は、機会があればお話ししたい。）

唐と北九州倭国

- 漢が滅び、360年振りに中国を統一したのが隋である。隋は短期間で倒れたが、それを継いだのが唐である。唐は中国の正統政権として、三国時代（魏・呉・蜀）の魏の後継者を称した。
- 北九州の倭国（卑弥呼が女王であった国）は魏の冊封国であったから、自動的に唐の冊封国とされた。
- 大倭国（ヤマト）は昔（景行の頃）北九州倭国を攻めて、自分の支配下に置いていた。

白村江の戦い

- 660年、長年大倭国の盟友であった百済は、唐・新羅の連合軍の攻撃により滅亡した。
- 663年、百済復興を目指した大倭国の軍は、朝鮮白村江で大敗した。（前回）
- 「白村江の戦い」に勝利した唐は、倭国が大倭国と血のつながりがなければ、大倭国を占領すると脅したのである。

国史を大改造

- 701年、大宝律令が完成した。完成の報告と共に、雄略～天智の『略史』を持参した。この『略史』は北方韻の中国語で書かれている。

- この『略史』は、二つの造作が行われている。

- 大倭国は呉と交流したのであって、南朝宋に対する朝貢は他の「倭」が行ったとした。

- 皇子による「大逆」を隠蔽した。

- 唐は、『略史』では「北九州倭国」がないので、国史全体の歴史を提出するよう命じた。

- 大倭国は遣唐使帰国後の検討で神功皇后＝邪馬台国卑弥呼とし、「北九州倭国」が成長し、大倭国はその末裔であると言う、史実とは反対の歴史を作成し（前回）、これに添って『天皇記・国記』（允恭以前）を書き直し、唐に提出した。

- 出雲を九州に変えるため、話の筋が大きく変えられた。

- クマソ

「倭人伝」にはクマソのような一族が九州にいたとは書いてない。クマソを登場させたのは、倭国との戦いを記録するためではないか。

- ヤマトタケル

景行、成務、仲哀は世代違いとされているが、実は三人兄弟である。当時は末子継承であったから、景行は天皇の位には就いていない。天皇としたのは、九州方面の豪族を景行の一族に加えるためであろう（擬制的同族関係）。

景行を皇列に加え、クマソを登場させたことから、兄弟を世代違いとし、ヤマトタケルと言う人物を作り出したと見られる。（ヤマトの名を持つことから、『書紀』編纂の時に作られた人物と思われる。）

- 仁徳天皇

紀年の延長は神功を基準とした。神功の子である応神の紀年を後ろに延長したため、仁徳の治世も大きく変えられた。このため、仁徳が治世の最初で高句麗の好太王と戦った部分は応神の治世となり、仁徳は国内に蟄居する王として描かれている。

日本の歴史

- 日本の歴史では、『古事記』と『書紀』が現存最古の書とされている。しかし、現存しないが、『天皇記・国記』と『略史』の二書が存在したとしないと、全体の構成が出来ない。

- 『天皇記・国記』

『書紀』より100年前に国史が作られていたことは前回お話しした。収録は初代神武から第32代崇峻までと推定している、この書は『古事記』と同じく「倭化漢文」で書かれていたと推定している。

- 『略史』

702年、「大宝律令」の完成を報告するために唐を訪問している。この時に日本の歴史を簡単に記した『略史』を持参したと見られる。『略史』は第21代雄略から第38代天智までを記している。

『略史』は造作されている。宋への遣使は消され、皇子の起こした「大逆事件」は隠蔽されている。第33代推古以降はこの時に編纂されたと推定している。推古以降は造作されていない。

『略史』は、存在そのものが確認できない幻の書である。

○『日本書紀』

唐が神武以来の歴史を転出するように命じ、これに対して日本が作成したのが卑弥呼=神功皇后とする『書紀』である。『書紀』は日本の必要から編纂した史書ではない。唐の要請によるもので、編纂後は唐に提出された。

『略史』に初代神武から第19代允恭までの「紀」を紀年延長し、これに追加した史書である。雄略紀～天智紀は『略史』を転用したため、基本的には北方韻中国語とされ、追加部分は「漢音」の中国語で書かれている。

『書紀』は681年に詔が下され、720年に完成したというのが定説だがそうではない。704年、遣唐使の帰国以後、編纂した史書である。

○『古事記』

日本の正史は『天皇記・国記』である。『天皇記・国記』と『書紀』の二本立ては唐に対して問題が生じやすいので『書紀』1本に絞ったのである。『天皇記・国記』は回収・廃棄された。そして紀年を伝えるため『古事記』がつけられた。

●天皇が天皇であること

中国は、民の上（皇帝）になる人を天（神）が撰ぶ。
日本ではどうなのか。

むすび

『書紀』が最も大きな影響を残したのは、天皇が神の末裔とすることだろう。このため、『書紀』を正しい歴史に戻すことが出来なかったのではないか。

日本を一つにまとめ、外国に立ち向かうのには、「天皇」が最も効果があると思ったのだろう。明治の政府も同じことを考えた。